

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	22-066	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Changes in Alcohol Consumption after 1 Year of the COVID-19 Pandemic: A Cross-Sectional Study in a Region of France COVID-19 パンデミック 1 年後の飲酒の変化：フランスの地域における横断的研究		
執筆者		
Villette PA, Lyonnard O, Trehu C, Barais M, Le Goff D, Le Floch B, Dany A, Guillou Landreat M.		
掲載誌		
Int J Environ Res Public Health. 2022 Nov 15;19(22):15049. doi: 10.3390/ijerph192215049.		
キーワード		PMID
COVID-19、飲酒傾向、フランス		36429768
要 旨		
<p>目的： COVID-19 パンデミック発症 1 年後の飲酒量の変化を調査し、フランス成人集団において飲酒量の変化に関連する因子を検討した。</p> <p>方法： 2021 年 1 月 18 日から 3 月 9 日までブルターニュ西部の 18 歳以上の一般集団を対象に飲酒に関するオンライン調査を行った。飲酒は質問表 (AUDIT-C) を用いて AUDIT-C スコア 0-12 点 (0 点は飲酒なし) のうち、女性 0-2 点、男性 0-3 を「低リスクの飲酒」、女性 3 点以上、男性 4 点以上を「乱用の可能性」、男女とも 9 点以上を「依存の可能性」とした。さらに、ロックダウンによる飲酒の変化 (増加/減少/中止/変化なし) ならびにパンデミック時とロックダウン時における喫煙、大麻、ギャンブルの行いも確認し、飲酒量変化との関連を単変量および多変量ロジスティック分析により検討した。</p> <p>結果： ロックダウン時の飲酒変化について回答が得られた 2,109 人中 53.72% (1,133 人) が変化なし、27.64% (583 人) が増加、14.7% (310 人) が減少、3.94% (83 人) がやめたと回答した。飲酒量の増加は男性 (オッズ比 (OR) : 1.47, 95%信頼区間 (CI) : 1.14-1.90)、45-65 歳 (OR: 2.9, 95%CI: 1.45-6.36)、家族と生活している (OR: 0.62, 95%CI: 0.46-0.83)、医療専門家ではない (OR: 0.79, 95%CI: 0.64-0.99)、ロックダウン時の健康問題 (OR: 1.66, 95%CI: 1.32-2.08)、喫煙 (OR: 1.54, 95%CI: 1.21-1.96)、大麻の使用 (OR: 3.04, 95%CI: 1.93-4.87) と関連した。飲酒量の減少または断酒は、男性、18~25 歳、ブレストに住んでいること、一人暮らしであること、大麻の使用と関連した。</p> <p>結論： フランスにおいて COVID-19 ロックダウン時に過半数で飲酒の変化はなかったが、変化のあった人のうち過半数は増加であった。飲酒関連リスクを回避するため、具体的な予防策を構築する必要があると考えられる。</p>		